

日本メディア学会の研究活動体制の再編について

第39期理事会
研究活動委員会

研究活動体制再編をめぐる課題と背景

- ▶ 研究部会：学会の研究活動の厚みと広がり
- ▶ その一方で...
 - 部会ごとのテーマ・領域の重複や不足
 - 部会運営の人的な偏り
 - 理事・幹事の負担の重さ

再編の方向性

- ▶ 編成を現行よりも**大きな括り**に
 - ただし、現状の領域は網羅できるように
- ▶ **現状では手薄なテーマ**も扱えるように
- ▶ 担当理事・部会幹事でない**一般会員の関心や参加意欲**を汲み取る仕組み
- ▶ 担当理事・部会幹事の負担をなるべく減らす
 - WSや研究会の登壇者というよりは、企画・調整業務に注力

新たな研究活動体制（分科会とプロジェクト）

- ▶ 現状の「研究活動委員会－研究部会」という二層構造から、「**研究活動委員会－分科会－プロジェクト**」の三層構造へ
- ▶ 分科会は複数のプロジェクトを統括
 - 各分科会に2～3プロジェクト程度（過度に増えて細分化しすぎないように）
- ▶ 分科会の運営：担当理事
- ▶ **ジェンダー／ダイバシティに関する分科会**も設け、学会としてこれらの領域に取り組む姿勢を可視化

新たな研究活動体制

【第39期まで】

統括委員会	部会
研究活動委員会	理論研究部会
	ジャーナリズム研究・教育部会
	放送研究部会
	メディア史研究部会
	メディア倫理法制研究部会
	メディア文化研究部会
	ネットワーク社会研究部会
	ジェンダー研究部会



【第40期以降】

統括委員会	分科会	プロジェクト (例)
研究活動委員会	理論研究分科会	メディア理論プロジェクト
		ジャーナリズム理論プロジェクト
		倫理・法制プロジェクト
	社会研究分科会	ジャーナリズム研究プロジェクト <small>※新聞・放送からWebメディアまで、おもに「実践」面</small>
		コミュニケーション研究プロジェクト <small>※SNS、実証研究など</small>
		産業・技術研究プロジェクト
	文化研究分科会	ポピュラー文化研究プロジェクト
		メディア・リテラシー研究プロジェクト
	歴史研究分科会	メディア史研究プロジェクト <small>※文化史、ジャーナリズム史、思想史、歴史社会学等を含む</small>
		産業・技術史研究プロジェクト
ジェンダー／ダイバシティ研究分科会	ジェンダー／ダイバシティ研究プロジェクト	
公募プロジェクト統括の分科会	公募プロジェクトA	
	公募プロジェクトB	
	公募プロジェクトC	

分科会編成

- ▶ (研究対象ではなく) **ディシプリンや研究手法**にゆるやかに基づく構成
 - 「理論」「社会」「文化」「歴史」「ジェンダー／ダイバシティ」
- ▶ 学会の研究活動：必ずしもメディア研究に閉じない
 - 社会学、文化研究、情報学、歴史学、政治学、法律学、経済学、経営学、教育学、心理学等を開く姿勢を可視化
 - **他学会・周辺領域**の研究者がメディア学会に関心を寄せることで、さらなる活性化
- ▶ 分科会構成：おおよそ5期(10年)程度を目安に、必要に応じて見直すことができる

プロジェクトについて

- ▶ **大会WSや研究会の企画・運営**
- ▶ 「プロジェクト」は固定化されたものではない
 - 各期の分科会担当理事が中心になって、その構成や数、メンバーを検討
- ▶ プロジェクトのメンバー（幹事）
 - 原則的に**理事以外の会員**を充てる
 - 人数は、従来の部会より少数とし、登壇者を兼ねることも原則的に避ける
 - 幹事の負担を軽減し、多くの会員がさまざまなプロジェクトに関われるように

公募プロジェクト

- ▶ **会員からのプロジェクトの起案**を受け付ける
 - 一期2年（実質的に1年半）にわたって継続される研究プロジェクト
- ▶ 科研の共同研究のようなものではなく……
 - 新たな研究領域・方法論を拓く
 - 既存の分科会-プロジェクトではカバーしにくい研究動向を拓く